

# 第6章 将来のすがた

## 1. 将来像

本市の生物多様性の現状と課題をふまえ、生物多様性の保全と持続可能な利用を進める上での将来像を、以下のように示します。この将来像は、国の生物多様性国家戦略の長期目標年次である2050年を見据えて、達成を目指します。

### 山・里・川・まち

～自然の恵みを守り、活かし、みんなで未来につなぐまち青梅～

本市は、ブナの山地林、青梅林業ゆかりの林業地、里山の谷津と林、多摩川の渓流や河川沿いの崖線樹林、武蔵野台地の平地林、まちなかの身近な自然など、多様な自然環境に恵まれた市です。これらの特徴を皆で共有できるよう、「山・里・川・まち」として強調し、「多様な自然環境からの恵み」を皆で守っていくことをイメージしています。

また、生物多様性の恵みは長い時間をかけて育てていくものであり、わたしたちの世代だけでなく、未来の子どもたちの世代にも、その恵みを引き継いでいくことが必要です。生物多様性の保全と持続可能な利用を進めることにより、自然の恵みにあふれ、皆がその恵みを実感するとともに、より豊かな生物多様性の恵みを、未来に引き継いでいくことを表現しています。

この将来像が、市民、市民団体、事業者、専門家、滞在者、市など多様な主体が目指すまちの姿を共有する羅針盤となることで、オール青梅による取組みが進むことを目指します。



## 2. 将来目標

目指すべき将来像の達成に向けて、以下の5つの将来目標を定めます。

目標1：自然や生き物の情報を継続的に把握し、取組みの実施効果や課題を関係主体で共有し、次の取組みに活かしています。

- ◇ 本市を特徴づける山地、低山地、丘陵、台地、河川などの環境ごとに、本市の生き物の生息・生育状況を継続的に把握しています。
- ◇ 本市の生物多様性に関する情報収集のしくみが整い、取組みの実施効果や課題を関係主体で共有し、次の取組みに活かしています。

目標2：わたしたちの暮らしや多様な生き物の命を支える、山・里・川・まちの自然環境を守り、育んでいます。

- ◇ 秩父多摩甲斐国立公園に代表される自然豊かな山地や、本市を特徴づける森林、河岸や崖線の緑と一体となった多摩川の清流、人の手が加えられることで維持されてきた里山、まちなかの身近な自然など、多様な自然環境を守り、育んでいます。
- ◇ 山、里、川、まちに代表される自然環境の連続性が確保され、広域的な生き物の生息・生育地のつながりが維持されることで、生き物の生息・生育空間としての自然環境の機能が高まるとともに、わたしたちの快適な暮らしが支えられています。
- ◇ 地域の健全な生態系が維持され、人と生き物が共存できる社会が実現しています。

### 「山」の目標

- 生き物の命を育む良好な自然環境が保全されています。
- 適正に管理された森林は、水源かん養や防災・レクリエーション等の多様な機能を発揮し、市民の安全で快適な暮らしを支えています。

### 「里」の目標

- 人の手が加わることで維持されてきた里山の環境が保全されています。
- 里山で育まれた文化・知恵が継承されています。

### 「川」の目標

- 生き物を育む清流や水辺、崖線の樹林地や湧水等の環境が保全されています。
- 豊かな水資源が保全され、都民の暮らしが支えられています。
- 河川や水辺が、自然とのふれあいの場や、本市らしい景観のシンボルとして活かされています。

### 「まち」の目標

- 台地に残された平地林や農地、崖線などの自然環境が保全されています。
- 市街化が進んだまちなかでも、本市の生き物の豊かさが感じられる空間が充実しています。

目標3：農林業、観光、文化・芸術、教育、レクリエーションなど、暮らしのあらゆる場面で、生物多様性の恵みが活かされ、多くの人がその恩恵を受けています。

- ◇ 山地や里山、農地や水辺が、市民が自然とのふれあいを楽しむ場として保全・活用されています。
- ◇ 市内外の多くの人が、山や川でのアウトドア・レジャー、季節の花を楽しむイベントなどを楽しんでいます。
- ◇ 本市の豊かな自然環境・歴史を背景として育まれた農畜産物や、かつての「杣保」を象徴する地域木材、青梅縞の織物などをルーツとする特産品や文化が、観光商品や体験プログラム等において持続可能な形で活かされ、将来の世代に継承されています。

目標4：市内外の多くの人が青梅市の自然や生き物について正しい知識を持ち、その魅力を感じ、生物多様性の保全・活用の大切さを実感しています。

- ◇ 本市の豊かな自然の魅力や生物多様性の恩恵を、多くの市民が実感し、生物多様性を保全していくことの大切さを理解している市民が増えています。
- ◇ 本市が守り育てている森林や清流は、多摩川・荒川水系によるつながりを通して都民の安全で快適な暮らしを支えている重要な場であることを本市民だけでなく、多くの人が理解しています。
- ◇ 多くの人が、外来種をはじめとする自然環境に関する知識や、自然の中でのレクリエーションを楽しむためのマナー等を身につけ、自然環境と接しています。

目標5：多くの主体が生物多様性の重要性を認識し、みんなが一丸となって生物多様性の保全・活用に取り組んでいます。

- ◇ 市民や子どもが生物多様性の保全・再生の取組みに気軽に参加しています。
- ◇ 学校教育をはじめとするさまざまな場面で、子どもたちが生物多様性について学び、その保全を担う次世代として成長しています。
- ◇ 市民が環境負荷の少ない生活様式を実践するなど、市民の主体的な行動により生物多様性が守り育まれています。
- ◇ 市民や事業者など地域が主体となり、生物多様性の保全・再生の活動が持続的に展開されています。また、さまざまな形での参加・協働が進み、本市全体で生物多様性の保全に取り組む機運が醸成されています。